

第88期 報告書

HIRANO TECSEED Co.,Ltd.

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで



株式会社 ヒラノテクシード

| 証券コード | 6245 |

素材を創造させる“塗”

私たちヒラノテクシードは1935年の創業以来、熱と風の技術を追求し、“塗”技術を融合させ、時代の流れの中で進化する、素材を化学し、高品質並びに高付加価値の製品を生み出す設備を提供する『コーティング装置のトップ企業』として成長してまいりました。

薄型テレビや携帯電話、さらには太陽電池や燃料電池等さまざまな製造現場を支えるのが当社の技術です。

先端技術

コア
テクノロジー

主力商品

ヒラノグループ

株式会社ヒラノテクシード
ヒラノ技研工業株式会社
株式会社ヒラノエンテック
ヒラノ光音株式会社

FPD用光学機能性フィルム

フラットパネルディスプレイには、さまざまな機能性フィルムが使われています。当社は近年大型薄型テレビで脚光を浴びている液晶並びにPDP用ディスプレイパネルの中核を占める偏光板フィルム、反射防止フィルム、光拡散フィルム、電磁波防止フィルム、保護フィルム等の“機能性フィルム”を生産する精密クリーンコータを製造しております。



ディスプレイの前面板に貼り、画面の表面反射・映り込みを抑え、反射光を低減する反射防止フィルム等

塗
工
機
素材に多様な機能を持たせる

化学物質を素材に塗り、“薄い膜”を形成すると、素材だけでは不可能な多彩な機能を付加できます。

例えば、液晶やプラズマのFPD（フラットパネルディスプレイ）。フィルムに薄い膜をつくり、それを数種類貼り合わせることで、鮮明な画像が生まれます。この“膜をつくり”“貼り合わせる”のが当社の「塗工機」の役割です。



目立たないけれど、大切な仕事

“商品”は知っているけれど“どのような”道具で“どのように”つくられているかは、意外と知らないものです。当社では、創業以来培ってきた“熱”と“風”の技術【乾燥技術】に【コーティング技術】【ラミネーティング技術】【制御技術】を融合させ、お客さまに高精度な機械を提供し、数多くの商品の製造において重要な部分を担い社会に貢献してまいりました。

そして今、私たちはエネルギー分野を中心に環境に貢献すべく取組み、

と“乾”の技術

フレキシブル基板（FPC）

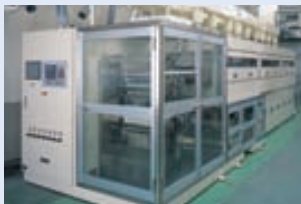
携帯電話に代表されるモバイル端末は近年、薄型・軽量化が急速に進んできました。また、自動車関連でも耐熱性や屈曲性が厳しく要求されます。当社では、これらの分野に使用されるフレキシブル基板の原反となるポリイミドフィルムの成膜装置や、そのフィルムと銅箔などを張り合わせる機械を製造しております。



ポリイミドフィルムに銅箔を張り合わせてできたフレキシブル基板

薄膜成型装置 高品質のフィルムを生み出す

液晶・プラズマ・携帯電話などの電子回路のコア部品、フレキシブルプリント基板。この基板の元となる、極めて薄いポリイミドフィルムをつくるのが、当社の「薄膜成型装置」です。フィルムの厚さや品質の均一性が重要となるこの分野で、当社の装置は高い評価を得ております。



また、さまざまな素材の製造プロセスに貢献すべく技術開発を行っております。

「エレクトロニクス」「高分子化学」「包装」「医療」「産業新素材」等、あらゆる分野において“塗る”“貼る”“乾燥する”“成膜する”という技術で当社の機械が係わっております。

目立たないけれど、大切な仕事です。



株主の皆さまへ

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、第88期（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）の決算を終了いたしましたので、その概況につきましてご報告申し上げます。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年6月

取締役社長

三浦 日出男

事業の概況

Review of Operations

事業の経過及び成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災の影響によるサプライチェーンの途絶並びに電力供給制限など経済活動は厳しい状況となりました。

期後半より、復興関連需要等により一部産業で生産活動にも回復傾向が見られたものの、長引く円高や株価低迷、また、海外においてもタイの洪水被害や欧州の債務問題などの影響もあり日本経済は、依然、先行き不透明感が払拭できない状況となりました。

また、産業用機械業界を取り巻く環境は、一向に収束しない円高やデフレ経済環境のなかで激しい価格競争のもとで受注状況は厳しいものとなりました。

このような状況のもと、当社グループは環境エネルギー分野や電子部材関連分野を中心に、顧客の高度な技術ニーズに対応すべく品質管理を徹底し、高精度の機器を提供することに注力し、リチウムイオン電池向けの電極塗工装置並びに真空成膜装置を中心に推移いたしました。

その結果、売上高は22,583百万円（前期比29.9%増）となり、利益面では経常利益は1,455百万円（前期比14.5%減）を計上し、当期純利益は870百万円（前期比10.0%減）となりました。

受注残高につきましても、リチウムイオン電池向け電極塗工装置や電気・電子部材関連装置を中心に推移しましたが、厳しい環境のもと13,376百万円（前期末比31.5%減）、うち国内は6,434百万円（前期末比42.7%減）、輸出は6,941百万円（前期末比16.4%減）となりました。

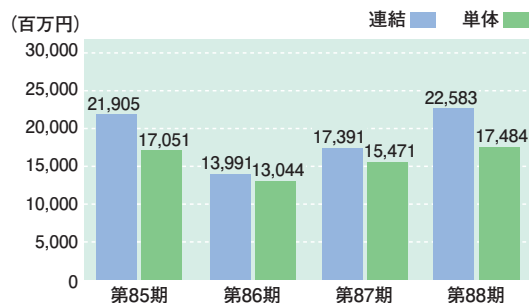
対処すべき課題

- ① 当社グループが製造販売する産業用機械業界は消費マインドの低下及び原油の高騰又はテロ等世界経済の動向に左右されます。また、現状では不安定な金融情勢に加えて、長引く円高の影響などで日本における産業の空洞化により多くの企業で新規設備投資計画を抑制する可能性もあり、設備業界にとっては不安定な状況にあります。そのような状況ではありますが、エネルギー関連分野等今後成長が見込まれる市場に注力しながら、市場動向を勘案し、各業界へ積極的に営業展開及び技術を提供し、リスク回避に努めてまいります。
- ② 市場環境の変化をグローバルな視点で捉え、営業・技術・設計・生産等一連の企業活動の改革を行い、企業価値を更に高めることを重点課題とし、ナノテクノロジー分野を対象に高クリーン・超薄膜コーティング技術の確立とドライコーティング技術とウェットコーティング技術の融合を図るべく、生産環境整備に向けた設備投資を行ってまいります。

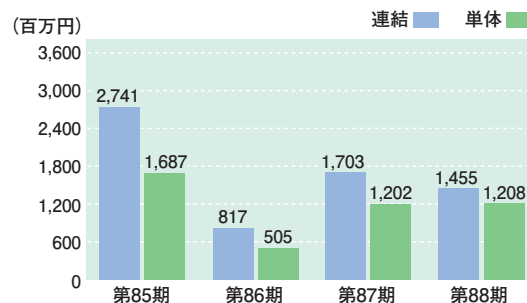
業績ハイライト

Financial Highlights

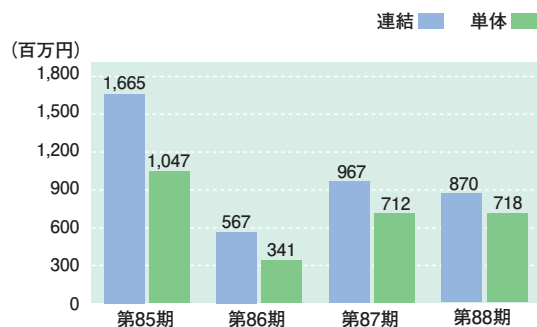
売上高



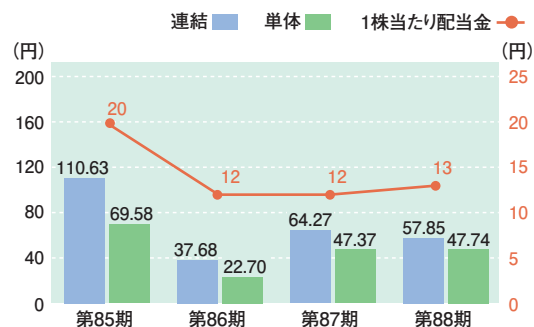
経常利益



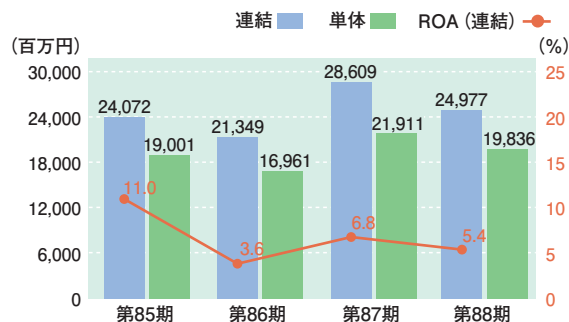
当期純利益



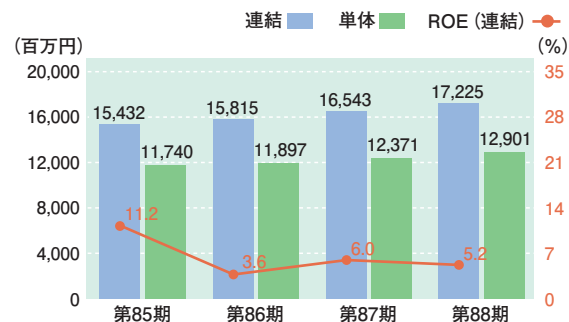
1株当たり当期純利益 / 1株当たり配当金



総資産 / ROA



自己資本 / ROE



セグメントの状況

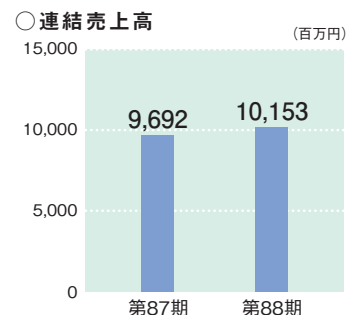
Segment Report

塗工機関連機器

各種コーティング、ラミネーティング装置並びにこれらに付随する乾燥・熱処理装置及びライン制御装置



塗工機

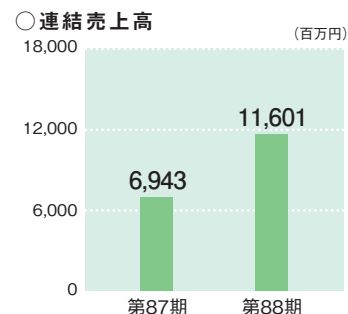


化工機関連機器

各種成膜装置、不織布・高機能繊維製造装置、フラットパネル塗布乾燥装置並びにこれらに付随する乾燥・熱処理装置及びライン制御装置

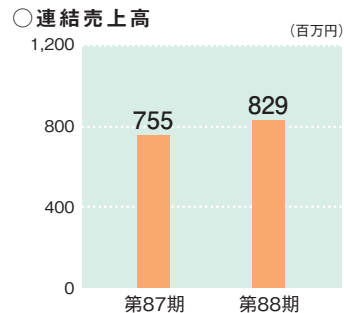


薄膜成型装置

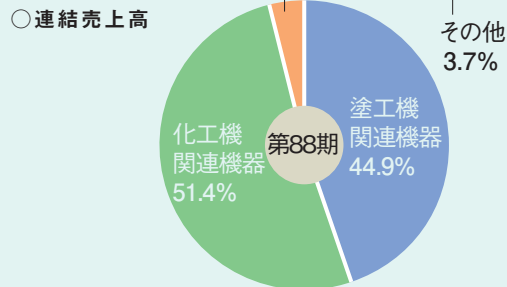


その他

染色整理機械装置、各種関連機器の部品の製造及び修理・改造等



セグメント別構成比



当社は、平成24年4月7日に大阪証券取引所上場50周年を迎えました。これもひとえに皆さま方のご支援、ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

これからも弊社は創業以来培ってきた“熱”と“風”の技術で、高精度な機械を提供し、社会に貢献できる企業であるよう努力を重ねて参ります。

どうぞ、今後ともご支援をよろしくお願い申し上げます。

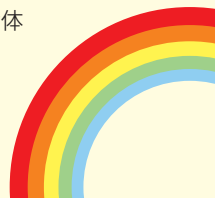
取締役社長 三浦日出男



当時の大阪証券取引所の様子
(株式会社大阪証券取引所提供)

昭和32年に合資会社より株式会社へ改組した時からの悲願であった株式市場への上場を達成するため、合併や増資又は転換社債の株式への転換を実施し、昭和36年資本金を100,000千円としました。

そして、昭和37年4月7日、大阪証券取引所市場第二部に上場を果たしました。一貫した合理化生産体制が実現できる工場用地、設備の取得、資金の調達を図り、企業イメージの向上をねらったものであると同時に世界市場への輸出を見込んだものでした。



さまざまな出来事があり、大きな歴史の1ページとなった年でした。

“企業は人なり”の信条のもとに、将来にわたって人材の育成を主眼点とした技術の拡張を図ると共に、科学的であり、かつ人間性豊かな社員の育成を目指して、中学校の卒業生を対象とした平野金属技能訓練所が大阪府知事の許可を受けて開設され、翌昭和38年には文部大臣から連携教育事業所としての指定を受け約12年間にわたり社会に羽ばたく人材の育成に取り組んでまいりました。



実習風景

平野金属技能訓練所開設

のちの発展の拠点となる八尾工場の第一期工場の建設を開始した年でもありました。

建屋を高くとり、クレーン及びフォークリフトを使用して組立を合理化することをねらいとしたもので、建設が着々と進む中、創業者の里井禎助の死去という悲しみも乗り越え、樹脂塗工装置の輸出やフィルム延伸機の業務提携など企業活動は活発なものとなりました。



工事の様子

八尾工場第一期工事建設

連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	第87期 (平成23年3月31日現在)	第88期 (平成24年3月31日現在)
資産の部	28,609	24,977
point 1 流動資産	24,115	20,249
固定資産	4,493	4,727
有形固定資産	2,880	2,846
無形固定資産	128	151
投資その他の資産	1,484	1,730
資産合計	28,609	24,977
負債の部	12,065	7,751
point 2 流動負債	10,703	6,374
固定負債	1,361	1,377
純資産の部	16,543	17,225
株主資本	16,433	17,106
資本金	1,847	1,847
資本剰余金	1,339	1,339
point 3 利益剰余金	13,651	14,326
自己株式	△405	△406
その他の包括利益累計額	109	118
その他有価証券評価差額金	109	118
負債純資産合計	28,609	24,977

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	第87期 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)	第88期 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)
売上高	17,391	22,583
売上原価	13,969	19,457
売上総利益	3,422	3,126
販売費及び一般管理費	1,793	1,728
営業利益	1,628	1,397
営業外収益	91	74
営業外費用	16	16
経常利益	1,703	1,455
特別利益	2	—
特別損失	22	1
税金等調整前当期純利益	1,683	1,453
法人税・住民税及び事業税	753	520
法人税等調整額	△37	63
少数株主損益調整前当期純利益	967	870
当期純利益	967	870

point
1

流動資産

流動資産は前連結会計年度末に比べ3,866百万円減少し20,249百万円となりました。その主な要因は受取手形及び売掛金が1,469百万円増加したこと、有価証券が3,110百万円及び仕掛品が2,834百万円それぞれ減少したことによります。

point
2

流動負債

流動負債は前連結会計年度末に比べ4,329百万円減少し6,374百万円となりました。その主な要因は、前受金が329百万円増加したこと、支払手形及び買掛金が4,268百万円減少したこと並びに未払法人税等が419百万円減少したことによります。

point
3

利益剰余金

当期純利益が870百万円計上されております。

連結株主資本等変動計算書

第88期(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本					その他の 包括利益累計額	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	
平成23年4月1日残高	1,847	1,339	13,651	△ 405	16,433	109	16,543
連結会計年度中の変動額							
剰余金の配当			△ 195		△ 195		△ 195
当期純利益			870		870		870
自己株式の取得				△ 1	△ 1		△ 1
自己株式の処分			△ 0	0	0		0
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						8	8
連結会計年度中の変動額合計	—	—	674	△ 1	673	8	681
平成24年3月31日残高	1,847	1,339	14,326	△ 406	17,106	118	17,225

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	第87期 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)	第88期 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)
point 4 営業活動によるキャッシュ・フロー	3,201	△ 1,858
point 5 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,981	1,192
point 6 財務活動によるキャッシュ・フロー	55	△ 138
現金及び現金同等物の増加額(△は減少)	△ 1,724	△ 804
現金及び現金同等物の期首残高	10,344	8,620
現金及び現金同等物の期末残高	8,620	7,815

point
4

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によって使用されたキャッシュ・フローは1,858百万円となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益が1,453百万円になったこと及び、売上債権が1,140百万円増加し、たな卸資産が2,744百万円、仕入債務が4,393百万円それぞれ減少したこと、法人税等の支払を939百万円行ったことによります。

point
5

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によって得られたキャッシュ・フローは1,192百万円となりました。これは主に、有価証券の取得によって3,489百万円の支出を行ったこと及び、有価証券の売却によって5,239百万円の収入があったことによります。

point
6

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によって使用されたキャッシュ・フローは138百万円となりました。これは主に、長期借入金の約定弁済を494百万円行う一方、長期運転資金確保のため長期借入金を500百万円実施したこと、また、配当金の支払を195百万円行ったことによるものであります。

財務諸表

Non-consolidated Financial Statements

貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	第87期 (平成23年3月31日現在)	第88期 (平成24年3月31日現在)
資産の部	21,911	19,836
流動資産	17,735	15,481
固定資産	4,176	4,354
有形固定資産	2,526	2,475
無形固定資産	78	62
投資その他の資産	1,571	1,816
資産合計	21,911	19,836
負債の部	9,540	6,935
流動負債	8,313	5,703
固定負債	1,227	1,231
純資産の部	12,371	12,901
株主資本	12,261	12,783
資本金	1,847	1,847
資本剰余金	1,339	1,339
利益剰余金	9,479	10,002
自己株式	△ 405	△ 406
評価・換算差額等	109	118
その他有価証券評価差額金	109	118
負債純資産合計	21,911	19,836

損益計算書

(単位：百万円)

科 目	第87期 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)	第88期 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)
売上高	15,471	17,484
売上原価	12,837	14,952
売上総利益	2,634	2,531
販売費及び一般管理費	1,507	1,419
営業利益	1,126	1,112
営業外収益	90	111
営業外費用	14	15
経常利益	1,202	1,208
特別利益	1	—
特別損失	22	1
税引前当期純利益	1,181	1,206
法人税・住民税及び事業税	510	422
法人税等調整額	△ 41	65
当期純利益	712	718

配当のお知らせ

当社は、株主各位への配当金は、企業の収益状況により決定するものと考えており、安定的な配当の維持を基本としております。

内部留保資金につきましては、長期的展望に立った新規技術の開発・事業の拡大及び経営体制の効率化・省力化のための基礎資金として充当し、企業体質と企業競争力の強化に取組んでまいります。

当期の利益配当金につきましては、この基本方針に基づき1株当たり6円と大阪証券取引所市場第二部上場50周年記念配当1円を加え7円（中間配当金6円と合わせて、年間配当金は1株当たり13円）とさせていただきます。

会社の概況

Company Information

(平成24年3月31日現在)

社名	株式会社 ヒラノテクシード
英文社名	HIRANO TECSEED Co.,Ltd.
創業	昭和10年6月1日
設立	昭和24年7月25日
資本金	1,847,821,888円
従業員数	234名
事業所 本社	〒636-0051 奈良県北葛城郡河合町大字川合101番地の1 電話 (0745) 57-0681
東京支店	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-8-16 (千城ビル9F) 電話 (03) 3242-5441
インターネット ホームページ	http://www.hirano-tec.co.jp/

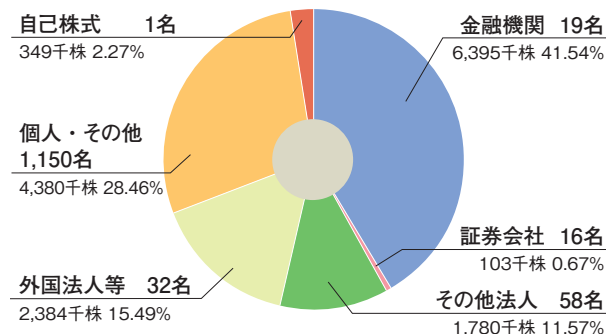
株式の状況

発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式総数	15,394,379株
株主数	1,276名
大株主	

株主名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
	千株	%
明治安田生命保険相互会社	1,450	9.64
ヒラノ会	1,207	8.03
伊藤忠商事株式会社	1,000	6.65
オーエム04エスエスピー クライアントオムニバス	979	6.51
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社 (信託口)	763	5.07
株式会社三菱東京UFJ銀行	737	4.90
株式会社りそな銀行	731	4.86
日本マスタートラスト信託銀行株式 会社 (信託口)	687	4.57
ザバンクオブニューヨークメロンアズ エー ジェントビーエヌワイエムエイエス イーエ イタッチベンションオムニバス 140016	303	2.01
株式会社みずほ銀行	300	1.99
株式会社南都銀行	300	1.99

(注) 1. 上記の他、自己株式数349,436株を保有しております。
2. 出資比率は自己株式数を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



※平成24年1月4日より単元株式数を1,000株から100株に変更しております。

役員

取締役社長 (代表取締役)	三浦 日出男
常務取締役	馬場 英樹
常務取締役	松葉 茂美
取締役	桑原 茂
取締役	入江 伸晶
取締役	定安 一男
取締役	松本 剛
常勤監査役	逸崎 正
監査役	高谷 和光
監査役	田中 寛治郎

(注) 監査役高谷和光氏並びに田中寛治郎氏は、社外監査役であります。

子会社

ヒラノ技研工業株式会社 (産業用機械器具製造)
株式会社ヒラノエンテック (繊維機械等部品製造)
ヒラノ光音株式会社 (真空装置等製造)

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (お問合せ先)	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話（通話料無料）：0120-094-777
上場証券取引所	大阪証券取引所 市場第二部
証券コード	6245
公告掲載方法	大阪市において発行する日本経済新聞

※株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話及びインターネットでも24時間承っております。

電話（通話料無料）：

0120-244-479（本店証券代行部）

0120-684-479（大阪証券代行部）

インターネットホームページ：<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

ヒラノテクシード ホームページ

<http://www.hirano-tec.co.jp/>

ホームページで当社の事業活動、商品の案内、投資家情報などに関する詳しい情報をご覧ください。ぜひご活用ください。



この報告書は、環境に配慮し、植物油インキを使用しております。